

移住定住 WEB サイト
「ココカラオオツチ」
ほか SNS で情報発信



▶ WEB サイト

大槌町の暮らしについて紹介しているほか、空き物件情報や地おこ募集の情報なども掲載



▶ インスタグラム



▶ ツイッター



▶ フェイスブック



▶ ライン



ぜひ活用して大槌の「居・色・自由」を楽しみましょう！

(株) ソーシャルネイチャーワークス

くどう ひでか
工藤 秀佳 さん

札幌市出身。リフォーム会社の埼玉県内の営業所に勤務した後、大槌町地域おこし協力隊1期生として着任。「害獣」を「まちの財産」に。を掲げる大槌ジビエソーシャルプロジェクトの一員として、ハンター育成事業などに取り組む。自分で獲った鹿や仲間とつくる野菜をさまざまな調理方法で料理するのが日々の楽しみ。



居・色・自由
いしづきじゅう

第3回

わたしたちも、大槌育ち

捕獲した鹿の命を価値あるものに変え、新たな人の流れを創り出す「大槌ジビエソーシャルプロジェクト」の一員として活動する地域おこし協力隊の工藤秀佳さんは、首都圏での2年間の会社員経験を経て、大槌へ移住しました。「地方に暮らすことの良さは、生き方の決定権が自分にあること」と実感を語ります。

移住した工藤さんは、まさに今、私たちと同じ町で「大槌育ち」の時間を過ごしています。

ちおこ活動と狩猟に
充実感を感じる毎日

大学時代には畜産を学び、食や肉に興味があった工藤さんは、大槌ジビエソーシャルプロジェクトに強い興味を覚えました。同プロジェクトは、大槌町で農林業の鹿の被害が深刻化する中、被害対策として捕獲した鹿の肉を全国流通させ、鹿肉や革製品、狩猟などを体験するプログラムを通して、大槌を知りつながりを持ってもらおうというものでした。「まだ使えるものを壊して処分する仕事に違和感を感じていたからこそ、それまでは捕獲して捨てていた鹿を

活用するという取り組みに魅力を感じました」と振り返ります。

工藤さんの職場は、鹿肉のプロモーションや「大槌ジビエツーリズム」「岩手ハンター育成プロジェクト」の企画・運営などを担うソーシャルネイチャーワークス。工藤さんは、地域の農林業を守る若手ハンターを増やすプロジェクト、さらに鹿の被害に悩む農家と連携して罾を設置し捕獲する取り組みの立ち上げから実行までを任せられました。「自分のような若手でも責任ある仕事を任せられ、会社のビジョン策定にもかかわることができるのは、小さな町の小さな会社だからこそ」と充実感を感じてい

ます。

大槌に来て約半年後には狩猟免許を取得し、猟銃を購入。自らもハンターとしてデビューを果たしました。「実は最初は猟銃を持つことに迷いがあって、ぎりぎりまで悩んだんです」と明かす工藤さん。全国の女性ハンターと知り合い、男性のベテランハンターたちに引けを取らず、協力して獲物を獲り、解体、料理までこなす彼女たちの姿に背中を押され、猟に出ることを決心しました。

11月に猟期が始まり、初めて獲ったのはヤマドリ。猟期内に目標としていた鹿も仕留めることができ、「自分で獲ったからこそ、何歳なのか、雄か雌かも分かるし、愛着が湧く。毎回、これはどうやって料理しようと考えながら大事に帰ります」と語ります。

地域の中で
自分の名前で生きていく

狩猟だけでなく、自分が食べるも

のを自分で確保できる暮らし方を理想としている工藤さん。地域おこし協力隊の仲間とともに耕作放棄地を耕して野菜を作ったり、海釣りや溪流釣り、山菜採りを楽しんだり。

自然と関わり、大槌、そして岩手で多様な人たちと関わる中で工藤さんが感じること、それは「都会の人は勤めている会社の名刺を持って生きていくけれど、地方には務め先だけでなくいくつもの役割を持って個人の名前で生きていく人がたくさんいる」ということ。仕事をしながら、町内会、PTA、消防団、猟友会、地域の祭りやサークル活動など、さまざまな顔を持ち、地域の中で暮らしている人たちの姿が工藤さんの地域での生き方のモデルです。「自分のやることに自分で責任を負って、生きたいように生きられること、これから何者にでもなれるんだと思うこと、それが地域で生きていくことのおもしろさだと思います」。